

令和5年度  
矢巾町ヤングケアラー実態調査報告書

矢巾町教育委員会事務局子ども課  
令和6年3月

## 目次

1. 調査概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2. 調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2~10
3. 考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11~13
4. まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
5. 資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15~19

# 1. 調査概要

## (1) 調査目的

矢巾町におけるヤングケアラー（本来、大人が担うと想定されている家事や家族の世話等を日常的に行っている子ども）と思われる児童生徒の実態を把握し、必要な支援につなげ、もって子どもの権利を守ることを目的とする。

## (2) 調査対象者

町立小中学校に通う小学5年生から中学3年生まで  
対象児童生徒数 1,173名（令和5年9月1日時点）

## (3) 調査期間

令和5年9月1日（金）から令和6年3月29日（金）まで  
アンケート調査期間（令和5年9月1日（金）から令和5年9月29日（金）まで）

## (4) 調査方法

Google forms による web 回答（各児童生徒の個人端末による入力）

※各校において実施

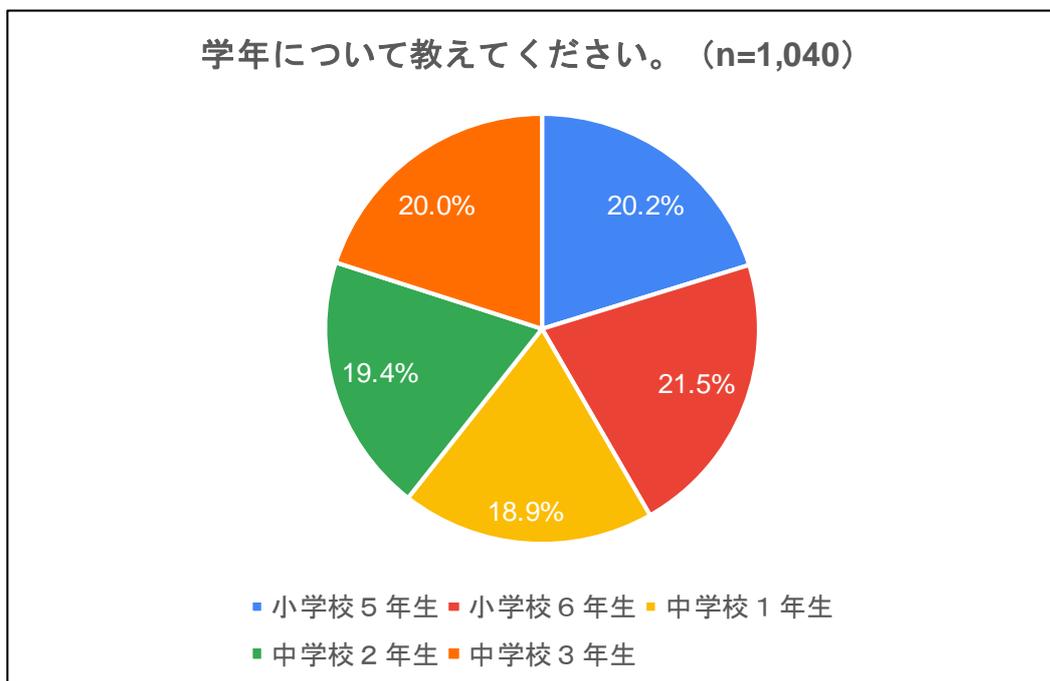
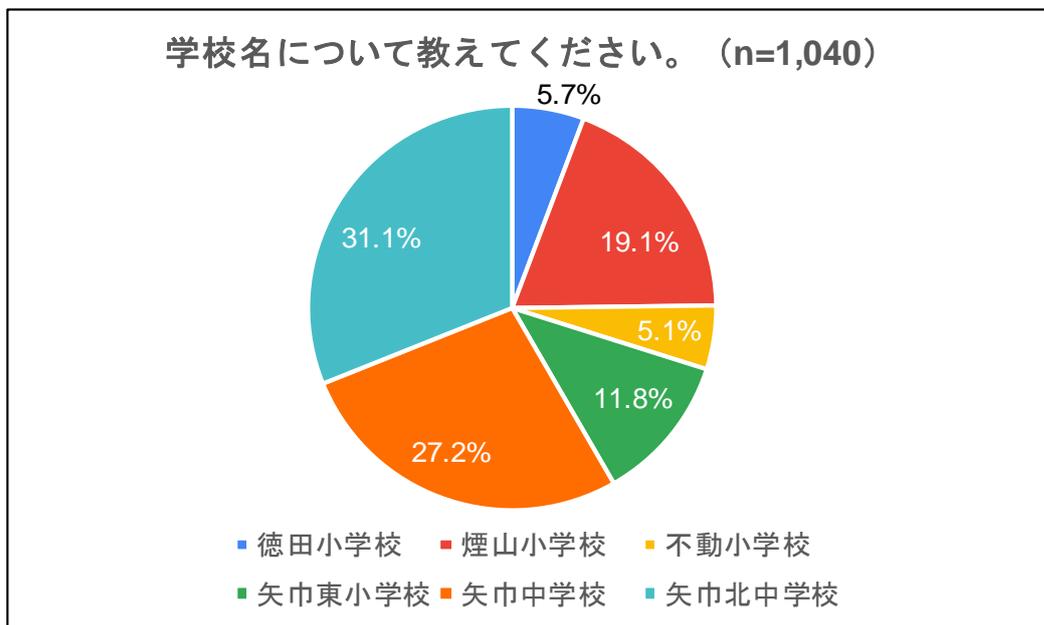
※アンケートに氏名を記載した児童生徒については、子ども課職員又は学校において個別に面談等を実施する。

## (5) 調査結果

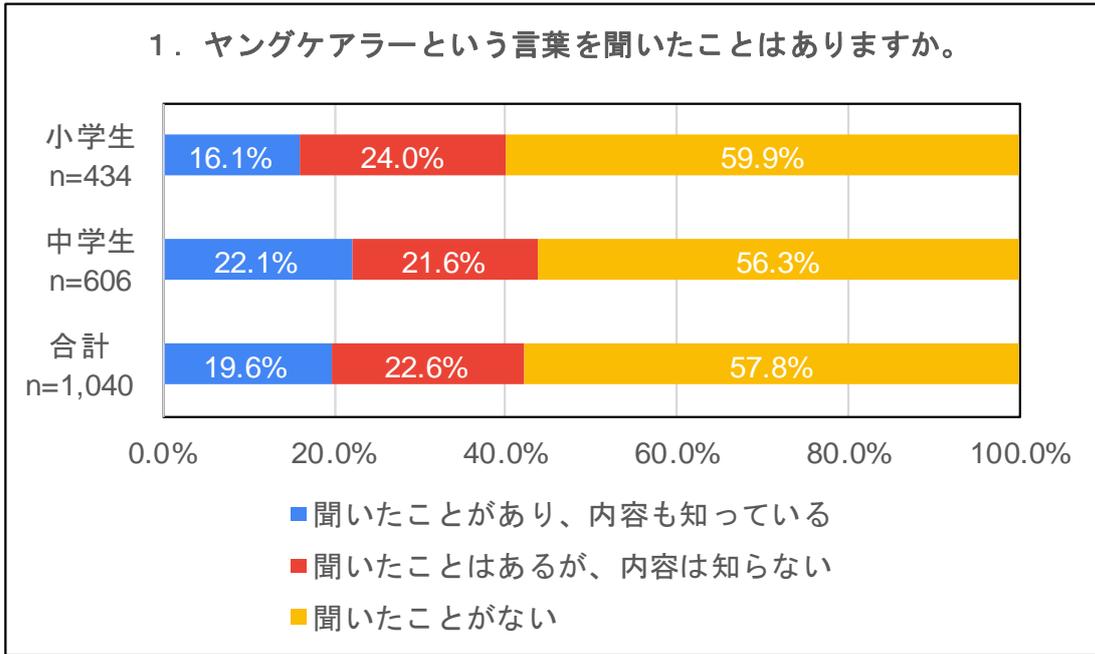
	調査対象者数	回答者数	未回答者	回答率
小学生	472	434	38	91.9%
中学生	701	606	95	86.4%
合計	1,173	1,040	133	88.7%

## 2. 調査結果

### • 基本情報

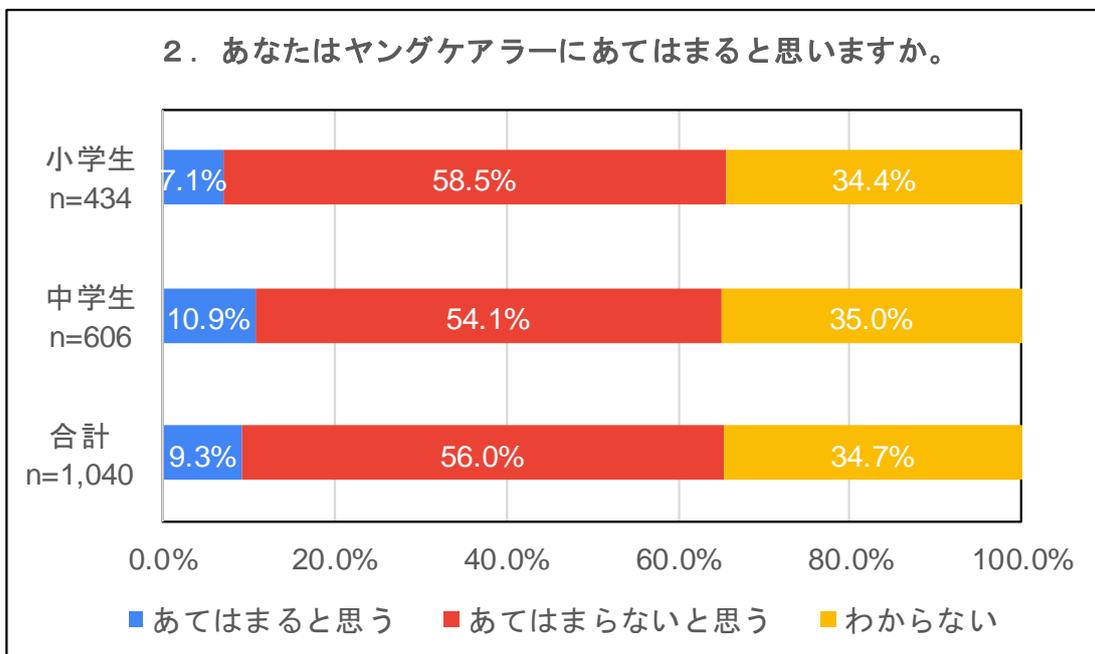


・調査事項



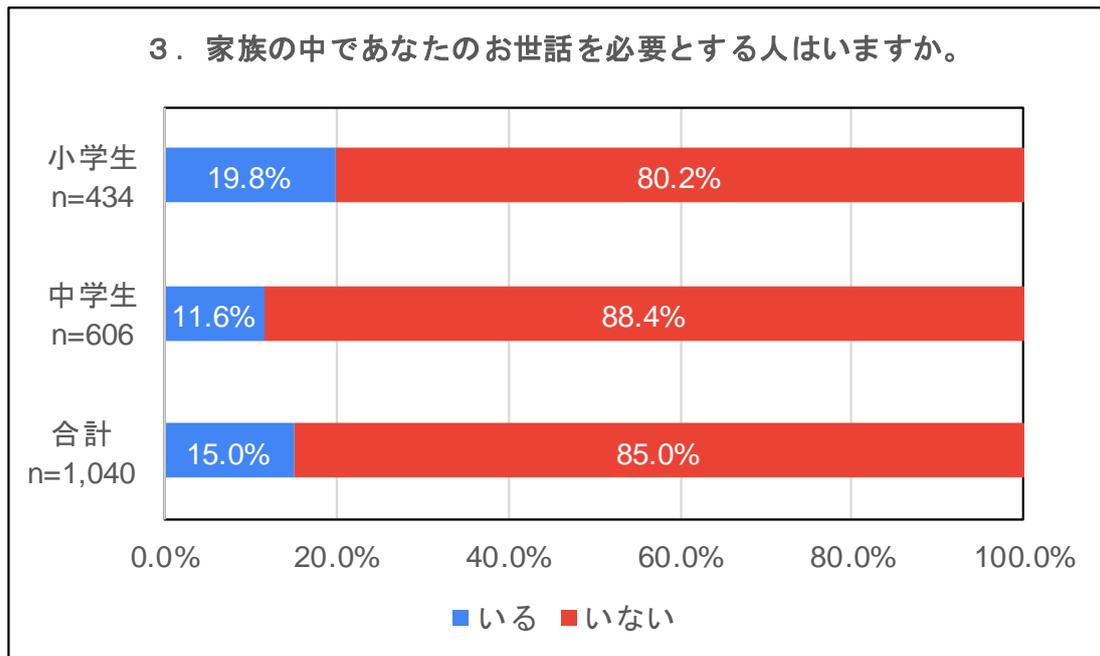
○「聞いたことはあるが、内容は知らない」、「聞いたことがない」を合わせると全体の約 80% になった。

○中学生の方が、ヤングケアラーについて聞いたことがある割合が高かった。



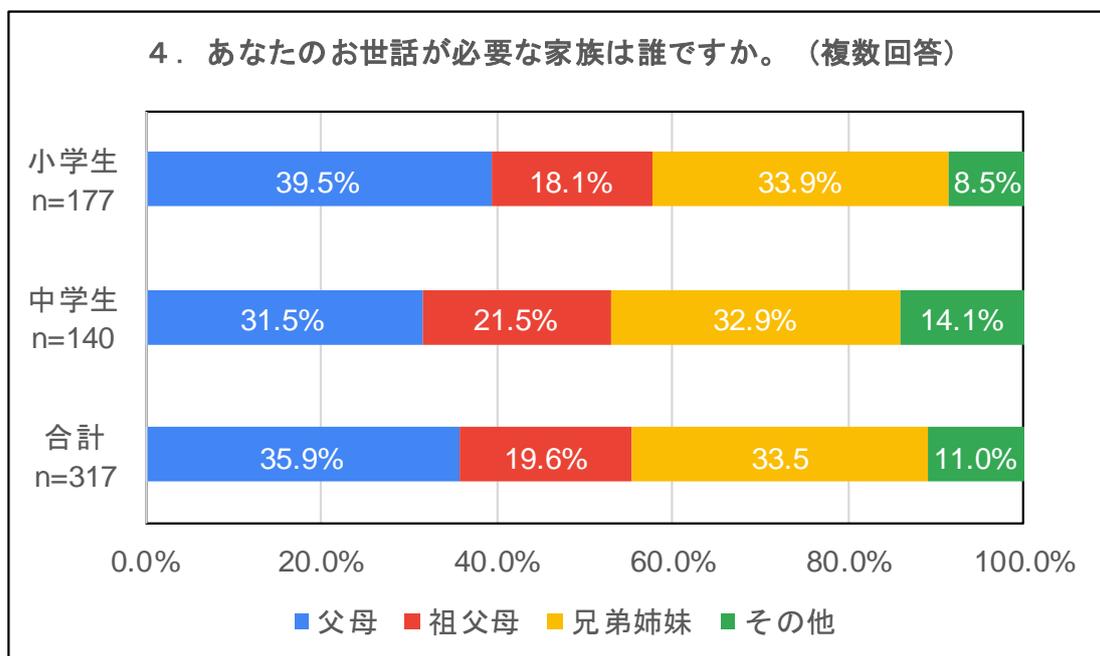
○「あてはまらないと思う」が全体の約 60%、「わからない」が約 35%になった。

○中学生の方が、「あてはまると思う」の割合が高かった。



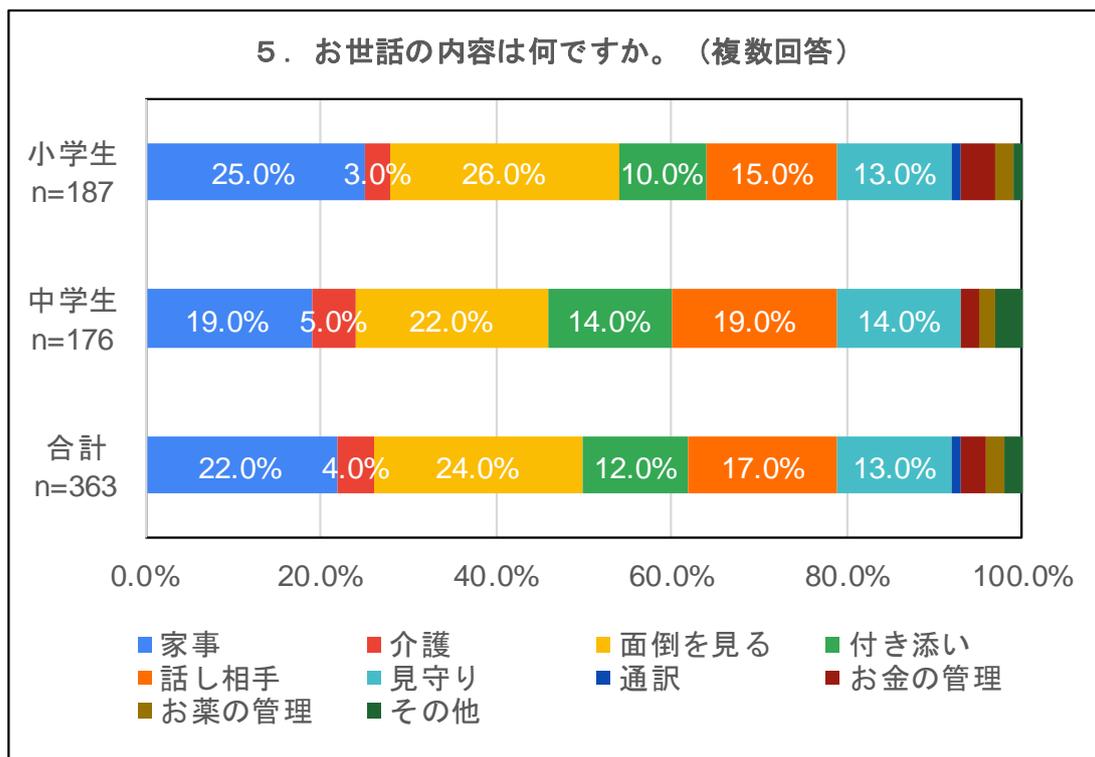
○「いない」が全体の約85%になった。

○小学生の方が、「いる」の割合が高かった。

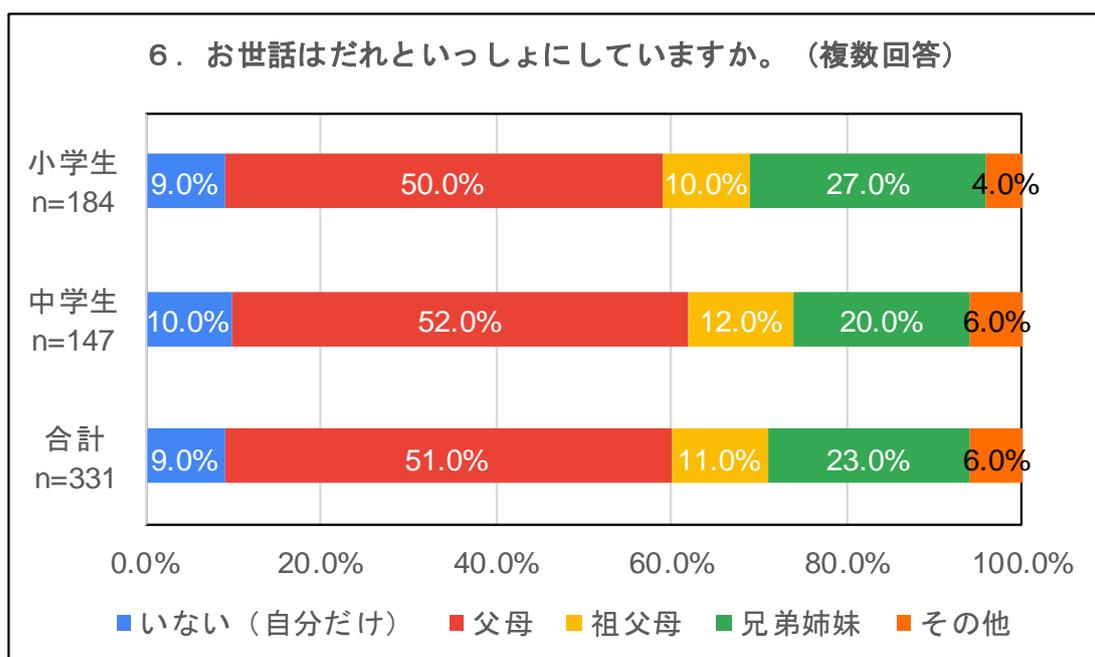


○小学生は「父母」の割合が一番高く、次いで「兄弟姉妹」となった。

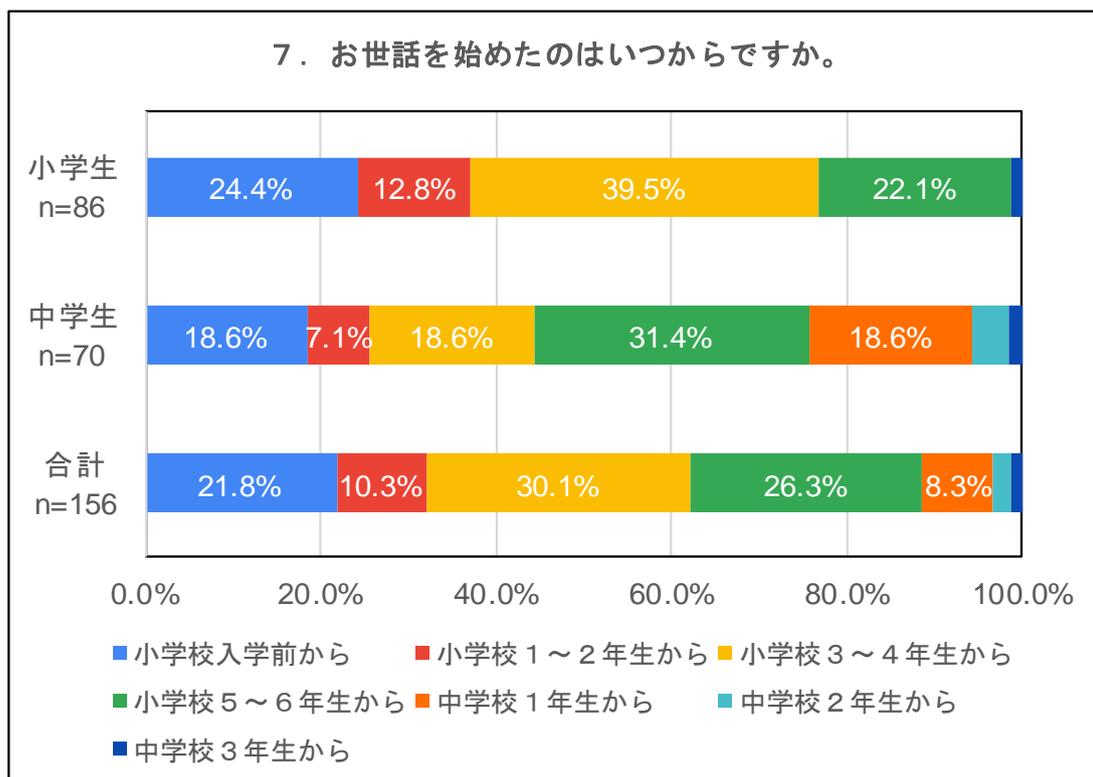
○中学生は「兄弟姉妹」の割合が一番高く、次いで「父母」となった。中学生の方が「祖父母」の割合が高い。



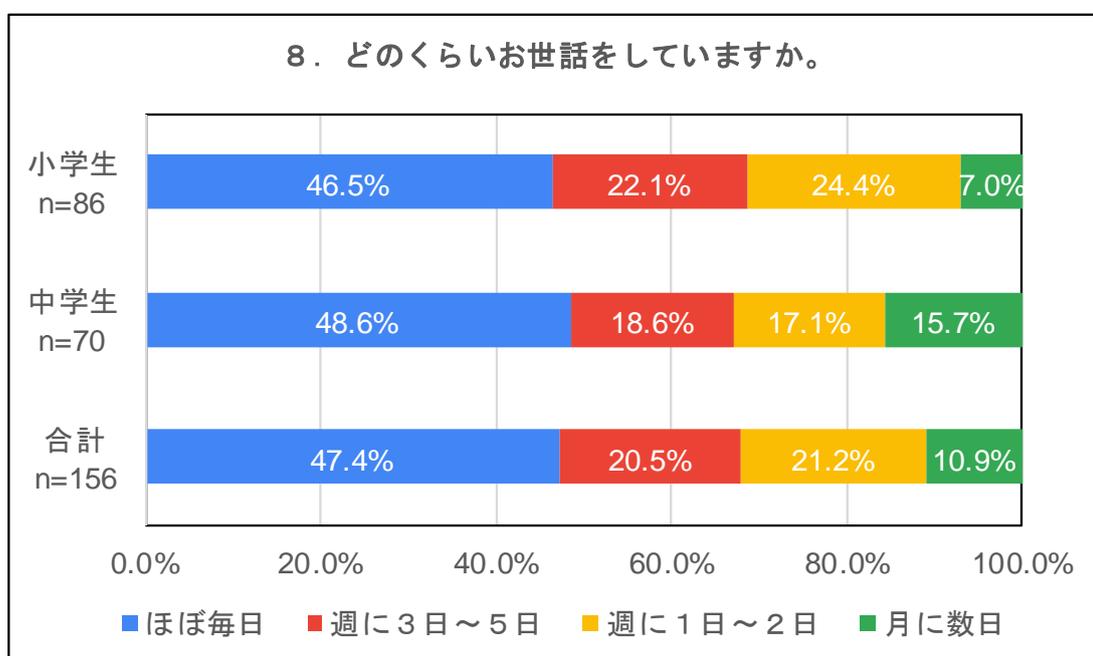
- 小学生は「面倒を見る」の割合が一番高く、次いで「家事」、「話し相手」となった。
- 中学生も同様に「面倒を見る」の割合が一番高く、次いで「家事」、「話し相手」となった。中学生の方が「介護」の割合が高い。
- 少数ではあるが、「お金の管理」、「お薬の管理」の回答もあった。



- 小学生は「父母」の割合が一番高く、次いで「兄弟姉妹」となった。
- 中学生も同様に「父母」の割合が一番高く、次いで「兄弟姉妹」となった。

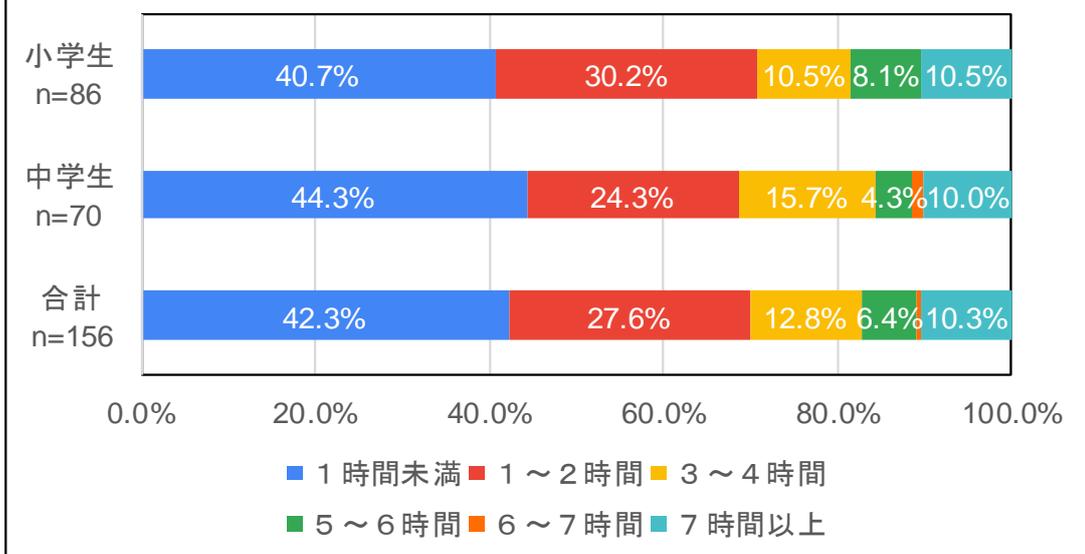


○小学生は「小学校3～4年生から」の割合が一番高く、次いで「小学校入学前から」となった。  
 ○中学生は「小学校5～6年生から」の割合が一番高く、次いで「小学校入学前から」、「小学校3～4年生から」、「中学校1年生から」が同じ割合となった。



○小学生は「ほぼ毎日」の割合が一番高く、次いで「週に1日～2日」、「週に3日～5日」となった。  
 ○中学生も同様に「ほぼ毎日」の割合が一番高く、次いで「週に3日～5日」、「週に1日～2日」となった。中学生の方が「月に数日」の割合が高い。

9. お世話をする時間は1日のうちどのくらいですか。

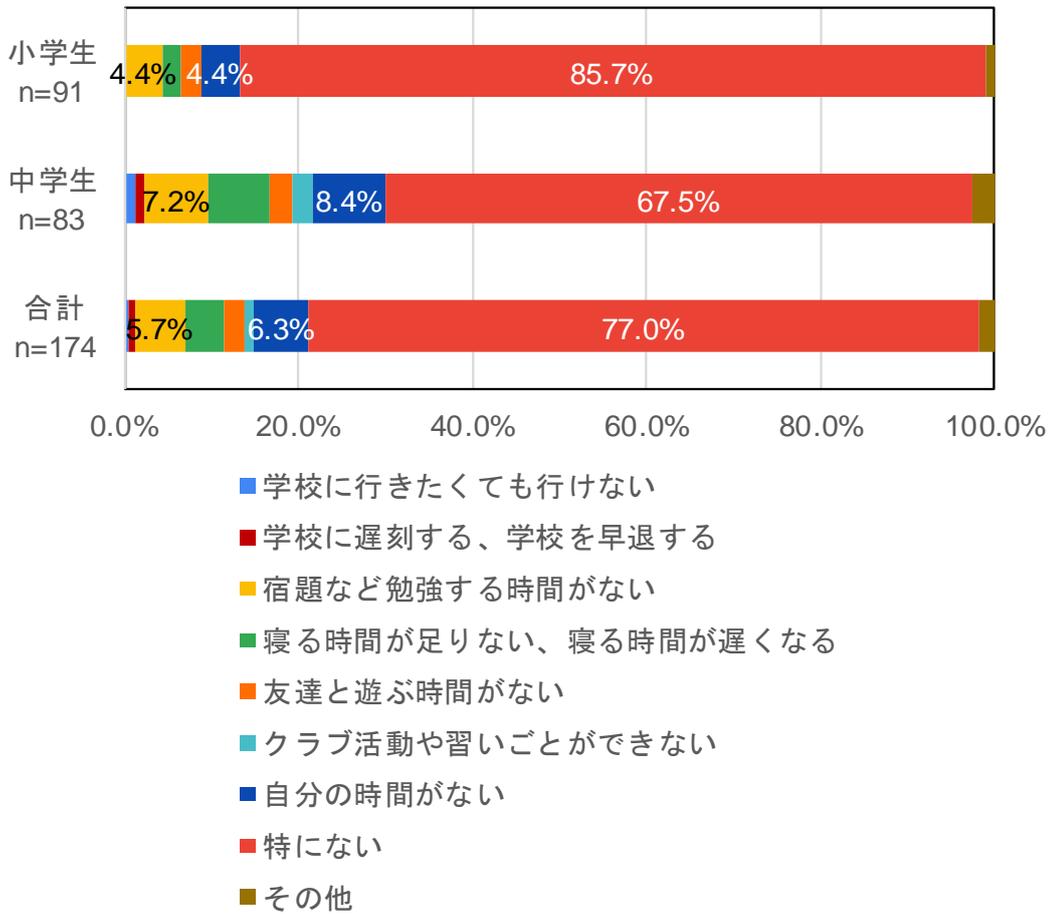


○小学生は「1時間未満」の割合が一番高く、次いで「1～2時間」となった。

○中学生も同様に「1時間未満」の割合が一番高く、次いで「1～2時間」となった。

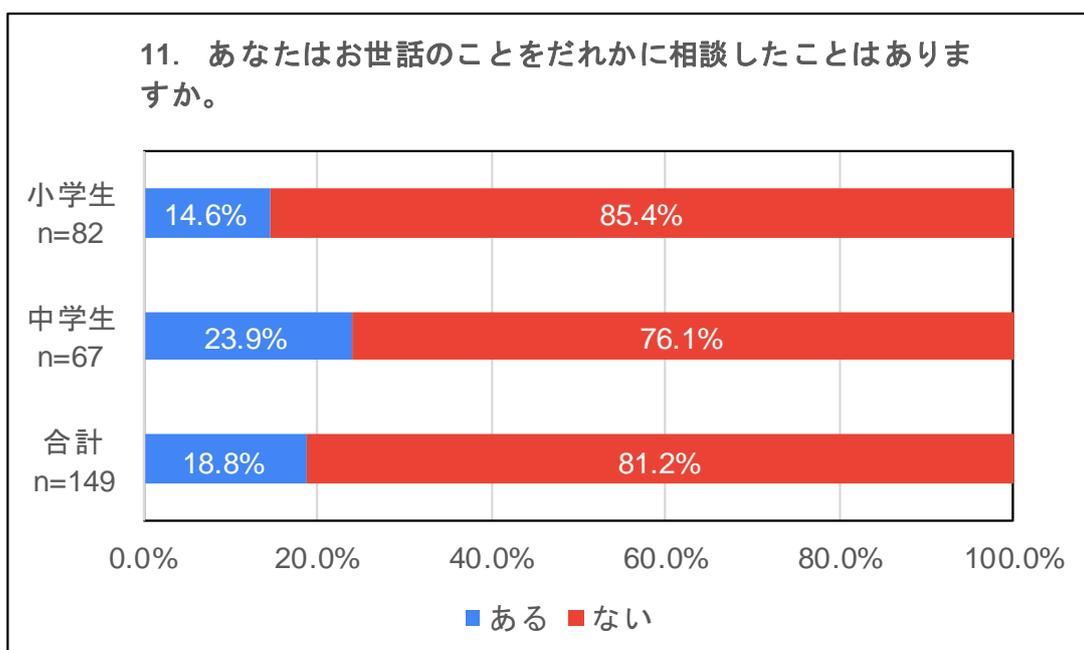
○小学生、中学生ともに「7時間以上」の割合が約10%あった。

10. お世話をすることで「できないこと」、「困っていること」はありますか。（複数回答）



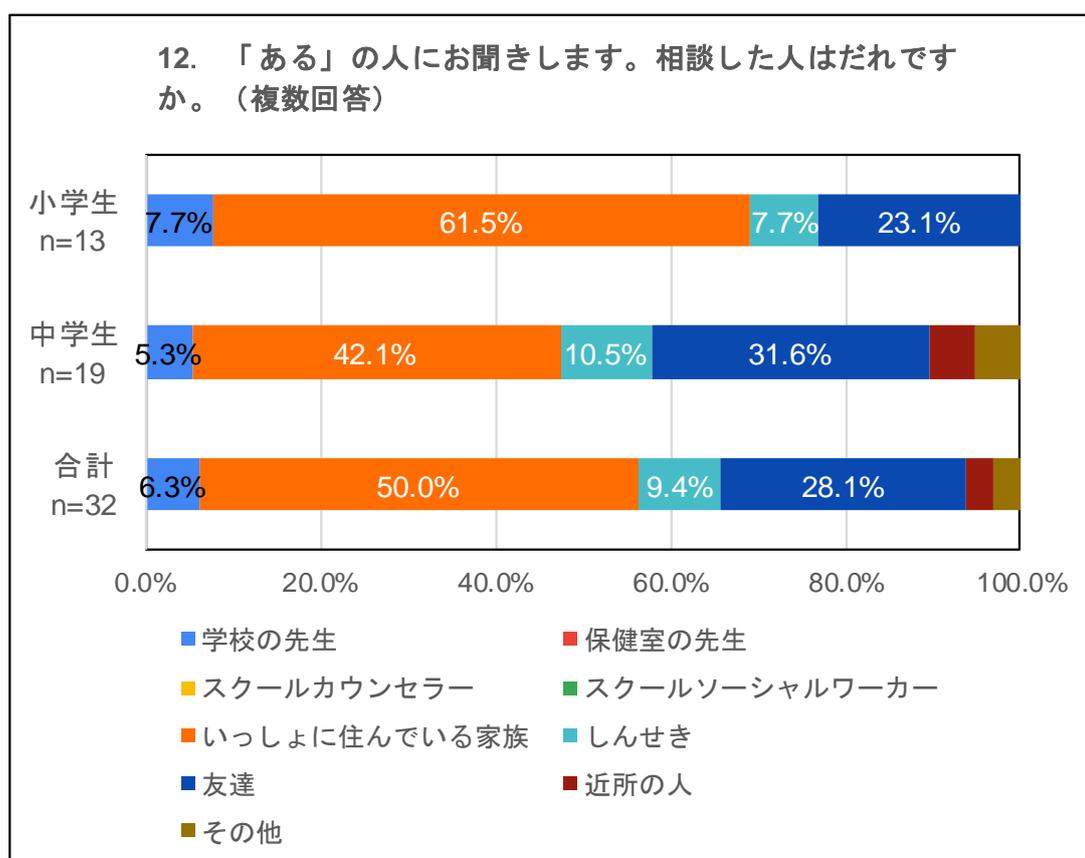
○小学生は「特にない」の割合が一番高くなった。

○中学生も同様に「特にない」の割合が一番高くなったが、「宿題など勉強する時間がない」、「寝る時間が足りない、寝る時間が遅くなる」、「自分の時間がない」の割合も小学生に比べて高い割合となった。



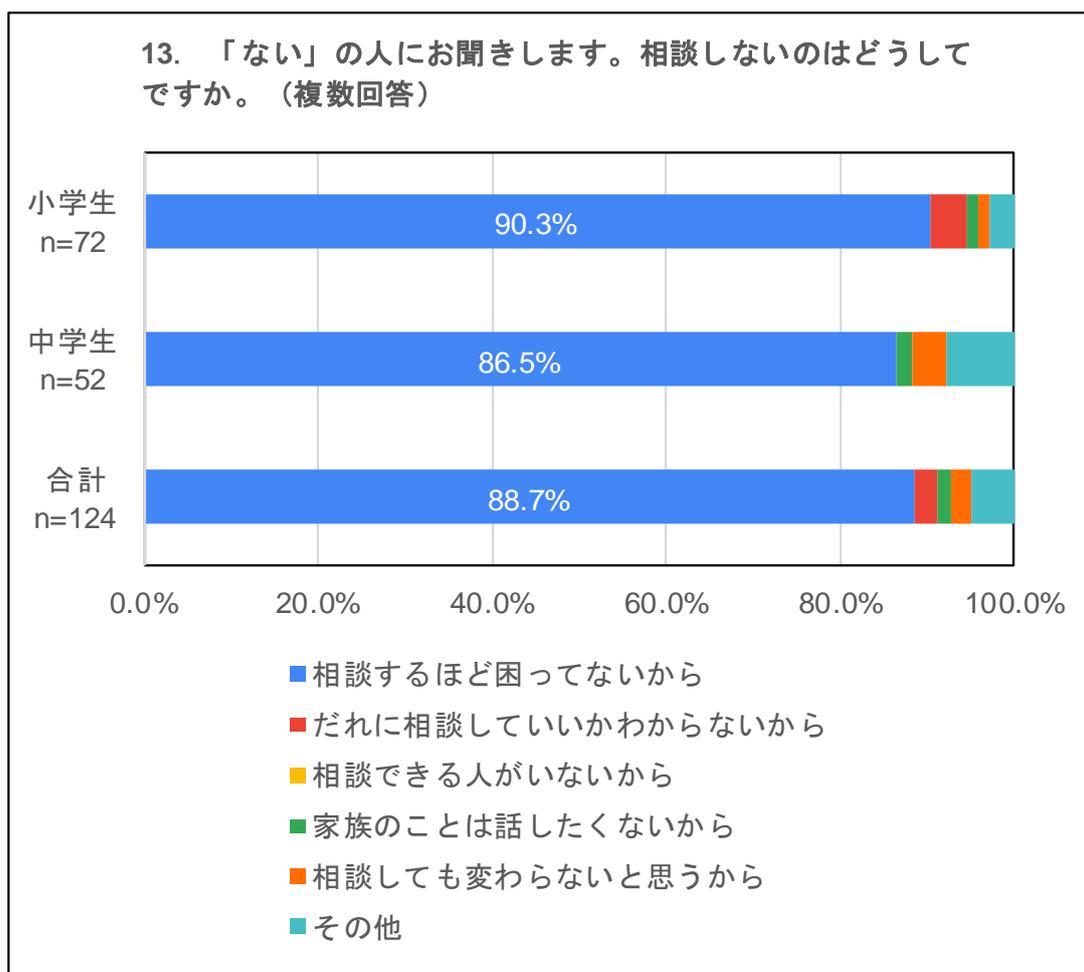
○小学生は「ない」の割合が約 85%となった。

○中学生は「ある」の割合が約 25%となり、小学生より高い割合となった。



○小学生は「いっしょに住んでいる家族」の割合が一番高く、次いで「友達」となった。

○中学生も同様に「いっしょに住んでいる家族」の割合が一番高く、次いで「友達」となったが、中学生の方が「友達」の割合が高くなっている。



○小学生は「相談するほど困ってないから」の割合が約90%と一番高く、次いで「だれに相談していいかわからないから」となった。

○中学生も同様に「相談するほど困ってないから」の割合が一番高く、次いで「相談しても変わらないと思うから」となった。

14. その他、伝えたいことなどがあれば、自由に書いてください。（自由記載）（一部抜粋）

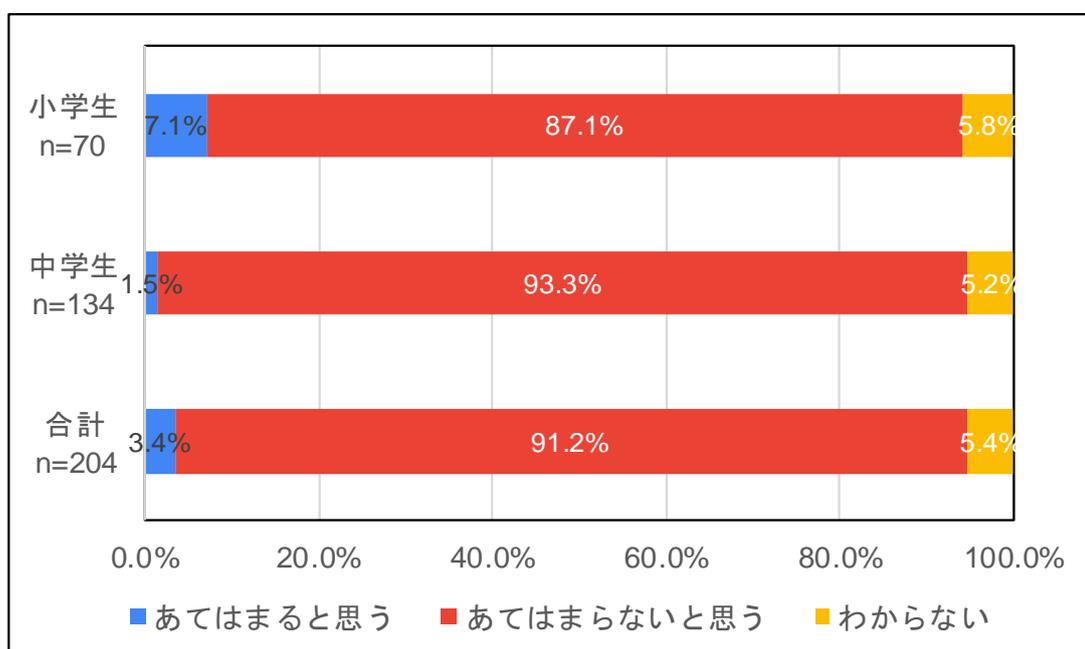
- ・たまに洗濯物を畳んだり、お母さんが忙しい時はご飯を作っている。
- ・マイナスな考えを少しでも減らしていきたいと思いました。
- ・お世話しなくちゃいけなくなったら、どう対応すれば良いですか。
- ・ヤングケアラーとは何か、しっかりと世間の人に伝えてほしいし、一刻も早くヤングケアラーの皆さんの辛さや悩みを解決してほしい。
- ・家事を親と分担して行っています。
- ・ヤングケアラーというものが何なのか私は分からなかったので調べてみようと思いました。
- ・週に5日くらいしか手伝わないため、ヤングケアラーに当てはまるか分からない。
- ・妹の遊び相手になっていることもあるが、ヤングケアラーなのかはわからない。
- ・このアンケートをやる前に説明がほしいです。
- ・自分のお世話を必要としている人をたすけてあげたい。

### 3. 考察

▶回答率について、小学生が91.9%、中学生が86.4%、全体で88.7%となり、小中学校の協力により高い回答率を得られた。

▶ヤングケアラーの認知状況については、約80%の児童生徒が内容を理解していない状況であるため、「2. あなたはヤングケアラーにあてはまると思えますか」の回答については、信ぴょう性が薄いと思われる。

※参考として、「1. 聞いたことがあり、内容も知っている」と回答した児童生徒における「2. あなたはヤングケアラーにあてはまると思えますか」の回答状況は、次のとおりである。



内容を理解していることから、「わからない」の割合が減少し、「あてはまらないと思う」の割合が増加した。中学生については、「あてはまると思う」の割合も減少した。

ヤングケアラーについて、わかりやすい内容の周知が必要である。

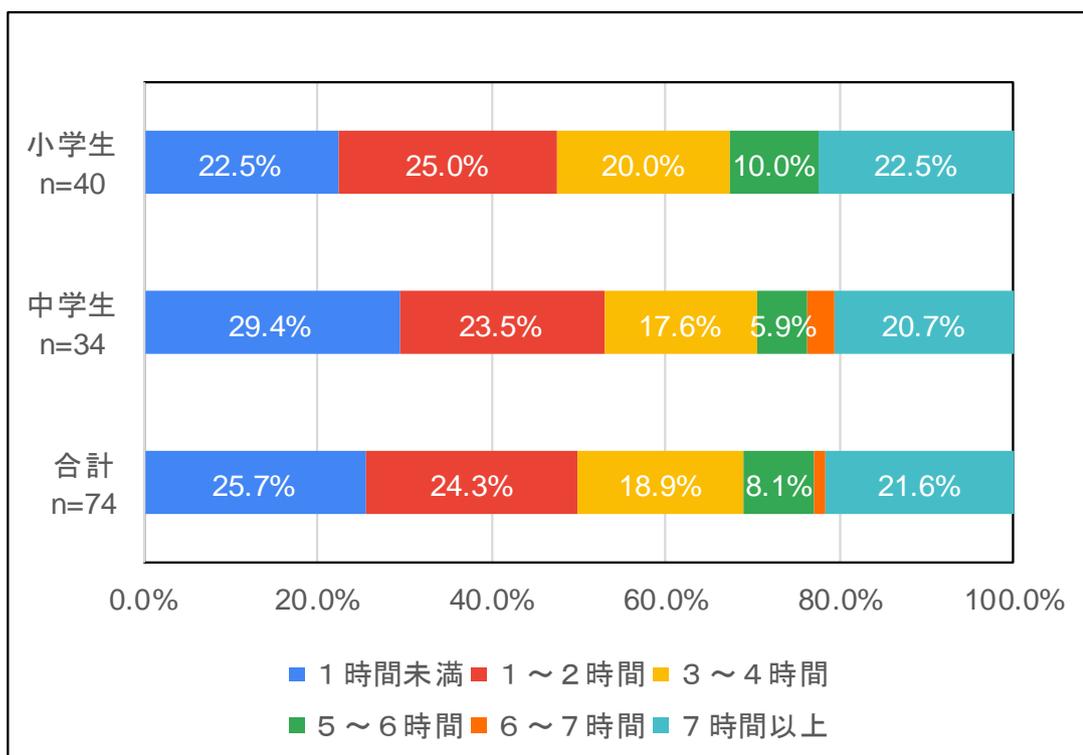
▶家族の中で世話を必要とする人がいる割合は、小学生については「父母」のうち「母」の方の割合が高い。また、「兄弟姉妹」のうち「弟」、「妹」の割合が高くなっている。中学生についても同様の傾向だが、小学生に比べ「祖父母」の割合が増え、「祖父」と「祖母」を比較すると「祖母」の割合が高い結果となった。

▶世話の内容は、小学生については「面倒を見る」と「家事」がほぼ同じ割合、次いで「話し相手」となっている。中学生については「面倒を見る」、「家事」及び「話し相手」がほぼ同じ割合となっている。また、中学生については小学生に比べて「付き添い」の割合も高くなっている。

る。少数ではあるが「介護」が全体の4%、「お金の管理」が3%、「お薬の管理」が2%あり、子どもにとっては負担の大きい世話をしている状況も見受けられた。

- ▶世話を誰と一緒にするかについては、小学生、中学生ともに「父母」の割合が高く、「父」よりも「母」の割合が高い。また、中学生に比べて小学生の方が「兄弟姉妹」の割合が高く、「兄」や「姉」の割合が高い結果となった。
- ▶世話を始めた時期については、小学生の約25%、中学生の約20%は「小学校入学前から」と回答しており、幼いころから世話をしている状況も見受けられた。
- ▶世話の頻度と時間については、「ほぼ毎日」、「週に3～5日」を合わせると全体の約70%となり、日常的に世話をしている結果となった。また、1日当たりの時間は、「1時間未満」、「1～2時間」が多い状況であった。「7時間以上」という回答も約10%あり、長時間、世話をしている状況も見受けられた。

※参考として、「ほぼ毎日」と回答した児童生徒における「9. お世話をする時間は1日のうちのどのくらいですか」の回答状況は、次のとおりである。



「1時間未満」、「1～2時間」、「3～4時間」、「7時間以上」がほぼ同じ割合となった。「7時間以上」の児童生徒については、日常的に長時間にわたり世話をしている状況となっている。しかしながら、平日、起床し学校に行くまでの時間及び学校が終わってから帰宅し就寝するまでの時間を考えると7時間以上世話をし続けることは現実的に難しいと考えられるため、休日と平日とを分けて調査する必要がある。

- ▶世話をすることの影響については、「特にない」が多くを占めるが、中学生の方が「できないこと」、「困っていること」がある割合が多くなっている。小学生に比べ、勉強や部活動等に要する時間が増える一方で、継続して世話をしなければならないこと、また、成長に伴い世話できる範囲が広がることにより、さらに多くの役割を担ってしまうことなどが考えられる。
- ▶相談の状況と相手については、相談したことがある小学生・中学生は全体の約 20%であり、相談相手は、家族、友達、親戚であり、身近な人が相談先になっている。相談したことがない小学生・中学生は全体の約 80%となっており、そのうちの約 90%は相談するほど困ってないと回答している。世話をすることで「できないこと」、「困っていること」が「特にない」と回答した割合も約 80%になっていることから、このような結果になっていると考えられる。相談しない理由として、小学生については「だれに相談していいかわからないから」の回答もあり、相談先のさらなる周知が必要と考えられる。また、中学生については「相談しても変わらないと思うから」、「家族のことは話したくないから」の回答もあり、相談することの必要性や相談内容の秘密が守られることなどを伝えることが必要であると考えられる。

## 4. まとめ

厚生労働省が令和2年度及び令和3年度に実施した調査においては、「世話をしている家族がいる」と回答した人の割合が、小学6年生で6.5%、中学2年生で5.7%となっている。また、「自分はヤングケアラーにあてはまると思う」と回答した人の割合については、中学2年生で1.8%となっている。本町においては、「世話をしている家族がいる」と回答した人の割合は、小学生で19.8%、中学生で11.6%となっており、「自分はヤングケアラーにあてはまると思う」と回答した人の割合については、中学生で10.9%となっており、ともに厚生労働省の調査よりも高い割合となっている。今回の実態調査の結果から、約80%の児童生徒がヤングケアラーの内容を理解していない状況であったため、内容を理解していると回答した児童生徒に注目すると、「自分はヤングケアラーにあてはまると思う」と回答した人の割合については、中学生で1.5%となっているため、正確な実態把握のためには、児童生徒に対してさらなるヤングケアラーにかかる周知が必要である。

また、ヤングケアラーの支援については、周りの大人の気づきが重要であり、特にも日ごろから児童生徒との関わりの多い小中学校や児童館の役割は大きいため、先生等を対象とした研修会を開催し、ヤングケアラーに対する知識と対応力の向上及び児童生徒が相談しやすい環境づくりを図る必要がある。

ヤングケアラーの認知度の把握及び支援体制の充実を図るために、今後も定期的にアンケート調査を実施する必要がある。

## 5. 資料

### アンケート調査 調査項目（イメージ）

矢巾町では、みなさんの生活についてアンケートを行うことにしました。たくさんの意見をまとめて、できることを考えたいと思いますので、ご協力をお願いします。

あなたが書いた内容はだれかに知られることはありませんが、「話がしたい」、「相談したい」という人のために名前を書けるようにしています。名前を書いてくれた人には、役場の子ども課の人や学校の先生がお話を聞きます。

学校名について教えてください。

- ・徳田小学校
- ・煙山小学校
- ・不動小学校
- ・矢巾東小学校
- ・矢巾中学校
- ・矢巾北中学校

学年について教えてください。

- ・小学5年生
- ・小学6年生
- ・中学1年生
- ・中学2年生
- ・中学3年生

クラスをキーボードで入力してください。答えたくないときは未回答でも大丈夫です。

( )

性別を教えてください。

- ・男
- ・女
- ・どちらでもない
- ・答えたくない

1. ヤングケアラーという言葉聞いたことはありますか。





- 1時間未満
- 1～2時間
- 3～4時間
- 5～6時間
- 6～7時間
- 7時間以上

10. お世話をすることで「できないこと」、「困っていること」はありますか。(複数回答)

- 学校に行きたくても行けない
- 学校に遅刻する、学校を早退する
- 宿題など勉強する時間がない
- 寝る時間が足りない、寝る時間が遅くなる
- 友達と遊ぶ時間がない
- クラブ活動や習いごとができない
- 自分の時間がない
- 特にない
- その他 ( )

11. あなたはお世話をだれかに相談したことはありますか。

- ある
- ない

12. 「ある」の人にお聞きします。相談した人はだれですか。(複数回答)

- 学校の先生
- 保健室の先生
- スクールカウンセラー
- スクールソーシャルワーカー
- いっしょに住んでいる家族
- しんせき
- 友達
- 近所の人
- その他 ( )

13. 「ない」の人にお聞きします。相談しないのはどうしてですか。(複数回答)

- 相談するほど困ってないから

